

平成27年度 学校法人IGL学園 IGL医療福祉専門学校 学校関係者評価

【平成27年9月13日実施】

※ 平成26年度 自己点検自己評価(平成26年4月1日～平成27年3月31日)による評価

大項目	点検・評価項目	自己評価 4:優れている 3:適切である 2:やや不適切 1:改善が必要	点検・評価項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)	学校関係者委員会評価 4:優れている 3:適切である 2:やや不適切 1:改善が必要	学校関係者評価委員会委員からの主な意見
基準1 目的・育成人材像	1-1 理念・目的・育成人材像 ①理念・目的・育成人材像は、定められているか ②育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか ③理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか ④社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	3.5	46年前から教育理念「隣人愛」を掲げ、IGL健康福祉専門学校設立以来、校訓「自信と謙遜」を掲げている。学校教育を通じて、普遍的に生きる知恵を身に付けることを職業教育の目標としている。	IGL学園理事長永見憲吾著『幸せレッスン』を教材にして、人類の幸せ作りについて考えておられる。 今年度策定した各学科の中期計画が、社会のニーズを反映して教育活動しているか来年度検証される予定である。	4	・教育理念「隣人愛」と校訓「自信と謙遜」を古くから携えて、学校運営に反映させている。 また、姉妹校の統合により少子化に対する将来を模索した変遷が図られている。
基準2 学校運営	2-2 運営方針 ①理念等に沿った運営方針を定めているか	4	IGLグループの基本理念、学校法人の教育理念は一貫している。	特になし。	4	・40年以上の歴史を持つ。 ・「隣人愛」に沿ってされている。
	2-3 事業計画 ①理念等を達成するための事業計画を定めているか	4	新たな学校作りに教職員全員が参加し、3年間の中期計画、単年度の事業計画を定めている。	統合という新しい条件の下で新たな学校づくりに全員が関わっている。	4	・3年中期計画を策定し、各学科の教職員が将来性を見据えている。
	2-4 運営組織 ①設置法人の組織運営を適切に行っているか ②学校運営のための組織を整備しているか	3	本部組織図、校務運営組織図というハード面は整っている。	特になし。	3	・組織構成については問題ないと思われる。学科によってはマンパワー不足を訴える科もある。
	2-5 人事・給与制度 ①人事・給与に関する制度を整備しているか	2	人事・給与に関する制度を公表するべきだ。	特になし。	2	・人事考課項目や規程の公開。
	2-6 意思決定システム ①意思決定システムを整備しているか	4	校務運営規程が整えられてあり、各種委員会運営規程に則って運営している。	統合初年度で、「耕地の地ならし」ができたところと評価されている。	4	・本年度統合による効率化が図られているようだ。
	2-7 情報システム ①情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか	3	報告・連絡・相談を大切にされており、統合によって新たな学校作りを進めておられるようだ。	統合は組織目的実現のための促進手段と受け止めており、風通しのよい組織が生まれつつある。	3	・本年度統合による効率化が図られているようだ。情報システムについては確認できていない。
	基準3 教育活動	3-8 目標の設定 ①理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか ②学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	4	理念・校訓に沿った教育課程の編成方針、実施方針、学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確に示している。	特になし。	4
3-9 教育方法・評価等 ①教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか ②教育課程について、外部の意見を反映しているか ③キャリア教育を実施しているか ④授業評価を実施しているか		3	授業は、厚生労働省指定基準準拠教育課程に基づいて運営されており、枠組みは安定している。キャリア教育・授業評価を組織的に実施されることを望む。	特になし。	3	・学科の統合から効率化を図ることも可能ではないかと思われる。
3-10 成績評価・単位認定等 ①成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか ②作品及び技術等の発表における成果を把握しているか		3	成績評価、単位認定等は学校の総決算であり、教育指導力の結果である。修業年限に応じた学習課題、最終学修到達目標として把握されるものであるから、透明性を高めると同時に、その基準は公示されなければならない。統合を機に、学則の見直しをされた。	統合を機会に、学則に成績評価、単位認定基準等を明記して、平成27年度入学生に公示した。	3	・今後、学生及び保護者によって評価されるものと思われる。
3-11 資格・免許の取得の指導体制 ①目標とする資格・免許は、教育課程上で明確に位置づけているか ②資格・免許取得の指導体制はあるか		4	職業教育の学校であり、厚生労働省の国家資格取得を目指す学校であり、また、日本語能力検定合格を目指す学校である。教育課程上の位置づけは明確である。指導力向上について、当委員会の評価行為が貢献できることを期待する。	学科の中期計画、自己申告書をツールとして、指導力向上に努めている。	4	・国家試験対策によって全学科で全国平均を上回っている。 資格の取得はもちろんのこと社会人一步手前の学校として実践力の向上にも期待したい。 ・引き続き全員合格を目標に取り組んでほしい。
3-12 教員・教員組織 ①資格・要件を備えた教員を確保しているか ②教員の資質向上への取り組みを行っているか ③教員の組織体制を整備しているか		3.3	厚生労働省指定国家資格取得者養成施設、日本語教育振興協会指定校であり、資格・要件を整えている。資質向上には、学校を上げて組織的に対応している。3年間の中期計画実現を目指している。	平成26年度 中期計画(3年間)策定	3	・資格の取得はもちろんのこと社会人一步手前の学校として実践力の向上にも期待したい。 ・教員は現状に満足せず専門的知識の研鑽を積んで欲しい。
基準4 学修成果	4-13 就職率 ①就職率の向上が図られているか	3	国家資格取得後、希望者全員就職している。その環境に甘んじることなく、就職の質を高めて欲しい。	キャリア教育導入により、学校全体の職業意識向上を図る。キャリアアドバイザー養成講座参加の予定。	3	・100%ではない。 ・業界の主要団体との関係を今後はさらに築いていく必要がある。

大項目	点検・評価項目	自己評価 4:優れている 3:適切である 2:やや不適切 1:改善が必要	点検・評価項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)	学校関係者委員会評価 4:優れている 3:適切である 2:やや不適切 1:改善が必要	学校関係者評価委員会委員からの主な意見
基準4 学修成果	4-14 資格・免許の取得率 ①資格・免許取得率の向上が図られているか	3	資格・検定取得は当然のことであるが、学生全員が合格することを維持して欲しい。	年度初めから試験日・検定日に向けて取り組んでいる。日本語学科では全員の合格には届かなかった。	3	・100%ではない。
	4-15 卒業生の社会的評価 ①卒業生の社会的評価を把握しているか	2	同窓会の存在自体が、専門学校においては特筆すべき財産です。一層の卒業生の現状把握、社会的評価を把握され、在校生の職業に対する誇りを高め、学習意欲向上に努めてください。	データ管理されてこなかった。学生管理システムを導入して、卒業後の進路情報管理の一元化が予定されている。	3	・同窓会は評価できるものの、卒業生の動向について追跡調査をしながら現役生教育への還元を求めたい。 ・同窓会との関係をより密に取り組んで欲しい。 ・卒業後の情報管理が必要である。
基準5 学生支援	5-16 就職等進路 ①就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	2	就職活動が円滑に進む学校体制を構築する。	各学科の実情に応じて行われており、教育課程編成委員会のご意見を生かして業界のニーズを反映する方針である。	2	・卒業生の動向について追跡調査をしながら現役生教育への還元を求めたい。 ・就職先へのフォロー等、考えてもよいのではないかと。卒業後の関係が乏しくなるのがさみしい。
	5-17 中途退学への対応 ①退学率の低減が図られているか	2	退学者が出ないよう指導力向上を図る必要がある。	特になし。	2	・全学科を通じて9.3%は、約10人に一人の割合で退学している。 ・入学時(1年次)に臨床現場を見学して学習意欲を向上させる等の対策が必要ではないか。 ・募集時からの説明と説得が必要。
	5-18 学生相談 ①学生相談に関する体制を整備しているか ②留学生に対する相談体制を整備しているか	3.5	担当が相談機能を持ち、学生生活委員会が支援する。留学生生活指導委員会が全体的に把握を行う。	担任、学科会が日常生活相談を行っている。定期的に留学生生活指導委員会を開き、留学生部が日常生活支援を行っている。	3	・学生相談に対する支援体制は構築されている。 ・担任を中心として対話・指導がなされていると感じた。今後も継続して欲しい。
	5-19 学生生活 ①学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか ②学生の健康管理を行う体制を整備しているか ③学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	2.8	経済的に余裕のない学生が、健康で豊かな学生生活を送れるように支援方法を考えていただきたい。学生生活委員会が学生生活実態を把握して、支援体制を整える必要がある。	特になし。	3	・寮の設置や交通手段等利便性に関し配慮されている。 ・クラブ活動が充実していてよいと思う。大会での結果等を卒業生に発信してもよいのではないかと。
	5-20 保護者との連携 ①保護者との連携体制を構築しているか	3	入学式から保護者の理解・協力を求めて、円滑な勉強環境を整えていただきたい。	高等学校卒業生とはいえ、保護者・保証人のご協力が大切である。入学から卒業まで連携体制を維持していく必要がある。	3	・最近の学生のメンタル面から考慮しても保護者との教育連携は必要ではないかと考える。
	5-21 卒業生・社会人 ①卒業生への支援体制を整備しているか ②産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか ③社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	2.7	同窓会の支援を得られることは、IGLの強みです。卒業生、社会人との連携を続けて、生涯教育の機能を発揮してください。	特になし。	2	・各学科共通で卒業生から現役生への「社会人の実際」を伝える機会が持てるとよいと思われる。
基準6 教育環境	6-22 施設・設備等 ①教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3	業界等のニーズに応える教育を行うために、利用者・患者に最新の介護・治療が行える施設・設備・教育用具等を整える。旧来の鍼灸・柔整学科は14年、口腔保健学科は8年を経過している。技術進歩による最新設備に更新していく必要がある。	統合時の改修・増築によって教育環境は改善された。	2	・医療は日進月歩といわれる。最先端の機器になじめる教育が求められる。 ・教育現場として業界のニーズは常に把握しておく必要がある。
	6-23 学外実習・インターンシップ等 ①学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	4	各学科とも現場実習を行っている。介護福祉学科、鍼灸学科、柔整学科は、海外短期研修を行っている。	特になし。	3	・見識を深める意味では意義深い。全学生が取り組められれば、尚よい。 ・柔整学科が取り組んでいる整形外科への臨床現場研修はこれからも継続してほしい。
基準6 教育環境	6-24 防災・安全管理 ①防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか ②学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	2	日頃から、自主防災組織を編成し、火災・防災避難訓練を定期的実施する。学生緊急連絡網、教職員緊急連絡網を管理、配布して、緊急時に安全確認、連絡体制を維持するなどのことを怠らないよう気を付けて欲しい。	統合に伴い、学校内の教室配置、学生の動線の変化を読んで、自主防災組織を整える必要がある。避難訓練を予定していたが、収集豪雨の影響で訓練延期となった。	2	・災害時想定訓練は、社会に出てからも必要なことであり、学生のうちに経験しておくことが重要と考える。 ・防災・安全管理の整備が急務である。

大項目	点検・評価項目	自己評価 4:優れている 3:適切である 2:やや不適切 1:改善が必要	点検・評価項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)	学校関係者委員会評価 4:優れている 3:適切である 2:やや不適切 1:改善が必要	学校関係者評価委員会委員からの主な意見
基準7 学生の募集と受け入れ	7-25 学生募集活動 ①高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか ②学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか	3	高等学校に留まらず、中学校、大学・短期大学、社会人に向けて情報提供するよう対象者を広げようとしている。法律を遵守し、優秀な指導能力を広報に活かして欲しい。	特になし。	3	・幅広く募集活動を行っている。しかし実績として定員充足率が低い。 ・定員充足により経営の安定を図っていただきたい。
	7-26 入学選考 ①入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか ②入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	3	学生募集、入学選考を通じて、職業意識と学習意欲を把握し高める取り組みを続けて欲しい。 学科によっては単位不認定者を多く出しているため、入学選考のデータを活用して、入学後の学習指導に生かしてほしい。	特になし。	3	・定員割れの改善が第一と考えるが、学生の入学時の偏差値維持にも努めていただきたい。
	7-27 学納金 ①経費内容に対応し、学納金を算定しているか ②入学辞退者に対し、授業料等について適正な取り扱いを行っているか	3.5	特に問題はない。	特になし。	4	・問題と思われるところはない。
基準8 財務	8-28 財務基盤 ①学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか ②学校及び法人にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	2	学校の各学科定員を満たす学生を募集し、財務基盤の安定を目指して欲しい。 財務状況を法人本部から提示され、学校存続のための必要条件を全教職員が認識する必要がある。	特になし。	2	・各学科とも定員割れが目立っているため収益構造にも影を落とすことになりかねない。
	8-29 予算・収支計画 ①教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を確定しているか ②予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	1	法人本部が中期計画を学校に明示して、その実現の為に経理をする必要がある。	特になし。	2	・各学科とも定員割れが目立っているため収益構造にも影を落とすことになりかねない。 ・予算案に基づき業務運営をすることは必要である。
	8-30 監査 ①私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	3	会計監査については、法人本部の所管で公認会計士による外部監査、監事による内部監査を適切なスケジュールで実施しており、指摘事項については適切な是正措置を講じている。	教職員が財務に関心を持つためには、日常業務が黒字体質かどうかを判断する材料を持つ必要がある。教職員に財務に関する情報を与えなければならない。	3	・公開された財務諸表の周知
	8-31 財務情報の公開 ①私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	4	財務情報については、法人本部の所管であり、私立学校法に基づく財務情報を公開している。	文部科学省ガイドラインおよび職業実践専門課程の申請に伴い、本校の情報公開用HPに「学校の財務」を明示している。	4	・公開された財務諸表の周知
基準9 法令等の遵守	9-32 関係法令、設置基準等の遵守 ①法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4	専門学校の教育に関わる各種の法令及び専修学校設置基準等を遵守して、適切な運営を行っている。	セクシュアルハラスメント等のハラスメント防止のための対応マニュアルを策定して、適切に運用していく予定。	4	・マニュアル化
	9-33 個人情報保護 ①学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3	個人情報については、その重要性を十分に認識して、学校法人全体の取り組みとして各種情報の保護を図る。	学校内の個人情報が厳格に保護されているか、常に点検する必要がある。	3	・監視委員会等の設置 ・これからも個人情報の保護に留意して流出しないように気をつけて欲しい ・実施後の周知
	9-34 学校評価 ①自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか ②自己評価結果を公表しているか ③学校関係者評価の実施体制を整備し、評価を行っているか ④学校関係者評価結果を公表しているか	3.5	平成25年度は文部科学省「専修学校の質保証・向上に関するガイドライン」に沿って実施した。学校関係者評価委員会を2回開いてその報告書を公表した。	本年度から、私立専門学校等評価研究機構の評価基準に従って、点検・評価を実施されている。	4	
	9-35 教育情報の公開 ①教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4	平成25年12月より文部科学省ガイドライン及び職業実践専門課程に要求されている全項目について、情報公開を開始している。	特になし。	4	・公開情報の周知
基準10 貢献・地域貢献	10-36 社会貢献・地域貢献 ①学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ②国際交流に取り組んでいるか	3.5	地域自治会の依頼を受け、また周辺業界との連携により学校施設・備品活用の機会を提供している。 日本語学科に学ぶ留学生と日本人学生が日常的に交流して、母国文化を尊重しながら国際交流を行っている。	職業教育の専門学校であるので、より一層の地域貢献をしていくことを期待する。	4	・地域事業への参加も行われている。
	10-37 ボランティア活動 ①学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	3	福祉・医療系専門学校の強みを発揮する場としても、ボランティア参加を進めてください。	特になし。	3	・スポーツ大会への救護ボランティアなどを行っている。 ・近隣のスポーツ大会への救護活動を積極的に参加している等、今後も地域への貢献を継続して欲しい。